

であいこうか

信楽のバイオリニスト

ふじわらりか
藤原 利佳さん



信楽町にお住まいの藤原さんは、関西フィルハーモニー管弦楽団の楽団員で、バイオリン奏者として活躍されています。一方で、地域でのボランティアコンサートなどの活動にも熱心に取り組まれています。

◆いつからバイオリンを始められたのですか？

6歳の時に始めて、それからずっとバイオリンと歩んできました。私は大阪出身で、結婚を機に信楽に移ってきましたが、この楽器を通じて色々な人と出会わせていただきました。

◆楽器が色々な出会いを作ったのですか？

はい。関西フィルの一員として毎年あいでこうか市民ホールでニューイヤーコンサートを開催させていただいていることには始まり、今まで関わらせていただいた方々と小さな演奏会を何度も開催しています。バイオリンがなければ、こういうつながりはなかったらと思うます。

◆演奏会の雰囲気はどんな様子ですか？

演奏会は、主催者の方と私が一緒に企画して、ギャラリーや個人宅といったアットホームな場所で開いています。普段とは違い、目の前のすぐ近くで演奏を聴いていただけるので、皆さんも私も暖かい雰囲気の中で演奏を楽しんでいます。信楽図書館などで開催している演奏会も地域の皆さんに恒例行事として親しまれてきました。これからも、色々な場所で、多くの方々に演奏を聴いていただき、音楽に親しむ文化がもっと地域に広がってほしいなと思っています。

※8月4日(日)
14時からあいの土山文化ホールにてコンサートが開かれます。藤原さんの奏でる音色をぜひお楽しみください。

問い合わせ
あいの土山文化ホール
☎66-1602



◀市民ホール「BAカフェ」リニューアル記念の演奏

初めて触れる生きた魚に おっかなびっくり

親子さかなつかみ大会

なびつくりの様子でしたが、親子で網を使ったり、川の端に追い詰めたりするうちに次第に夢中になり、魚つかみを楽しみました。



▲親子で夢中になった魚つかみ

4回シリーズで環境について学ぶ甲賀市エコライフ講座の第2回「野洲川自然教室」と親子さかなつかみ大会が7月15日、水口町鹿深大橋近くの野洲川で同時開催され、約120人の親子が参加しました。

この事業は、生きた魚と触れ合う体験を通して、野洲川や地域の豊かな自然を見直してほしいと野洲川を愛する会が毎年開催し、今年で14回目を迎えます。

この日放たれた魚は、アマゴやニジマス計500匹。初めて生きた魚に触れる子どももいて最初はおっかなびっくりの表情でしたが、川に追い詰められたり、魚つかみを楽しみました。

女性消防隊がAEDの使い方を指南

希望ヶ丘小学校応急救護研修

消防団女性消防隊によるAEDを使った応急救護研修が7月18日、希望ヶ丘小学校で開催され、保護者ら約70名が参加しました。

この研修会は同校PTA厚生部が、地区水泳など水に接する機会が多くなる夏休みに、いざという時保護者が冷静な対応をとれるように企画しました。

ほとんどの参加者がAEDに触れたことがないため、心肺蘇生法と併用しないと意味がないこと、適切に応急救護を実施しても一刻も早い病院への搬送が必要なことなどが説明されました。実技で心肺蘇生法を体験した保護者は「とても一人では対応できないことが分かった。冷静に協力者を募らな」と研修によって意識を改めていました。



▲女性消防隊の指導で胸骨圧迫

元気なまちかど

区、消防団が水防技術の再点検

宮町区水防訓練

「土のうづくりと効果的な積み方」講習会が6月23日、宮町会館周辺で開催され、区関係者13人、消防団雲井分団の団員31名が参加し、いざという時のための技術を再点検しました。

この講習会は、宮町区が雲井地域の消防団と協働して実施、河川増水の時の水防や火災時の水利確保のため、土のうの正しい作り方や運用方法を学ぶことが目的で、信楽消防署の消防士2名が講師を務めました。

消防団と一緒に土のうを作る際の土の量や、口の縛り方、河川堤防へ積み際の基本的な積み方と、目砂の突きかため等を学んだ区関係者は「今まで知らなかったことがあった。であいの時などに今日学んだことを地元で共有したい」と研修の意義を話されました。



▲区と消防団による土のう作り

日本の作法を、文化を学ぶ茶道体験

フランス青年ホームステイ

文化交流などを目的に市内に約一か月滞在していたフランスの大学生5名が7月3日、甲賀町佐山で茶道を体験しました。

この滞在事業は、夏季休暇を利用して行われる日本企業でのインターンシップ研修の前に、地域の中で文化や言語を学ぶことを目的に東京のボランティア団体が主催しているもので、市内では甲賀国際交流音楽会実行委員会と有志の皆さんが実施しました。

学生たちは、作法の持つ意味を学ぼうと日本語で一生懸命会話しながら、初めての動作にも積極的に挑戦し「400年前の作法が伝わっていて、僕たちが経験できるのはすごいこと」と日本の伝統文化に興味を持っていました。



▶作法「ひとつの意匠を読み解いて

サイクリングで地域とふれあう

忍者の里甲賀ふれあいサイクリング

忍者の里甲賀ふれあいサイクリングが7月6日、甲賀町を中心に開催され、県内外から約20人が参加しました。

この催しは、都市部にお住まいの皆さんと地元の方々で甲賀の田園地帯や土山の茶園の中を一緒に走り、地域の人々とふれあうことを目的に、大久保まちづくり推進委員会が主催しました。

大阪、名古屋など遠方からの参加者は「空気がきれい。土と緑の匂いが気持ちいい。」と約25kmの道のりを大原ダムなどのチェックポイントで地元の方の説明を聞きながら、気持ちよく汗をかいて走り終え、お昼には地元農家が古式農法で育てた自慢のお米でお腹を満たしました。



▲大原ダム前の坂を駆けのぼる